

平成 30 年度 事業報告書

平成 30 年 7 月 1 日から令和元年 6 月 30 日まで

特定非営利活動法人

アジアン・エイジング・ビジネスセンター

1 事業の成果

1) 福岡県バンコク都介護予防推進プロジェクト

3 年度目を迎えた JICA 草の根技術協力事業で、福岡県と協議を進めながら、中間報告会、現地指導、および評価研究指導を行った。

2) 福岡アジア高齢社会デザイン協議会

平成 25 年度から福岡市とともに実施している協議会では、介護技能実習生を送り出すミャンマーへの視察を行い、還流後の職域開発のために「介護実習普及センター」構想をミャンマー政府側に伝えるとともに、迎え入れる事業者等を対象にして、外国人介護人材育成還流セミナーを開催した。

平成 31 年 4 月からは、福岡市高齢社会政策課の組織変更により、福祉人材係が設置された。これに伴い、昨年度までの外国人介護人材養成支援スキーム等検討会の大部分は、新しい系の事業に移管された。新しい係とも連携して、令和元年 6 月には「外国人介護人材受け入れ支援プラットフォーム」キックオフ・イベントに協力した。

(1) 外国人介護人材養成支援スキーム等検討会議

理事長は、平成 30 年 6 月には福岡市が姉妹都市を結んだヤンゴン視察し、介護人材養成状況、高齢者介護実施状況を視察した。しかし高齢者保健福祉業務は中央集権の下で実施されていることが分かったので、11 月に再度ネピドーとヤンゴンを視察して、送り出し機関や政府関係者や NGO 関係者と協議を行った。

(2) 国際会議等における情報収集

1) 海外で開催された国際会議

平成 30 年 9 月、政府の外郭団体である東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA) からの要請で、イタリアのトリノにある ILO の国際トレーニングセンターで、開催された南南協力事業で、報告と協議を行った。世界的なエイジング (グローバル・エイジングと呼ばれる) の進展に伴い、各国はケア経済という新しい経済システムの構築を急がなければならなくなっている。中でも、ケア労働力の確保は国際的な競争状況が激化する動きになっている。こうしたことが協議の課題であった。

笹川平和財団が平成 30 年福岡市で開催した第 2 回アジア・インパクト・ダイアログに協力

したが、第3回がベトナムのハノイで平成31年3月に開催されたので、理事長が報告者として参加した。タイのタマサート大学が、EUからの資金供与を受けたNGOのヘルプエイジ・インターナショナルからの依頼を受けて実施したミャンマーの政府・大学の保健福祉指導者研修の講師として、令和元年6月、理事長が招聘され、講義をした。

2) 国内で開催された国際会議

この年度は、海外よりも国内で開催される国際会議の機会が多く、これに協力、あるいは参加して、多くの情報を収集できた。

(平成30年8月)

笹川平和財団が福岡市で開催した第2回アジア・インパクト・ダイアログに協力をした。

(平成30年9月)

九州大学が主催者となった世界社会科学フォーラムに出席して、世界の研究者と意見交換を行った。

(平成30年12月)

アジア開発銀行が開催したアジアの高齢者介護に関する研修会に講師として招聘された。

(平成30年12月)

理事長は福岡大学主催国際シンポジウムのセッション1-1「超高齢社会における高齢者生活の支援」でスピーカーとして登壇した。

(平成31年2月)

理事長は、九州大学韓国センターの開催する日韓の学生に対して、外国人介護人材についての講義を行った。

(平成31年3月)

中国上海を拠点として日本式の居宅介護事業を展開している張軍氏と協議を行って、中国における介護保険実施状況についての情報収集を行った。

(3) 外国人介護人材育成還流促進事業

視察結果を踏まえて、ミャンマーからも関係者を招聘して、平成31年3月には、外国人介護人材育成還流セミナーを開催した。

外国人留学生による「高齢者介護の業務と在留資格」についての通訳養成ワークショップを実施することにしてはいたが、政府が特定技能1号、2号という新しい在留資格を開設することをめぐり、種々の論議が巻き起こり、確定した情報が平成31年4月発足までに得られなかったため、次年度への繰り越しとなった。

3) その他

(1) 各種助成申請

三菱財団社会福祉事業・研究助成に「国際介護人材指導者訓練調和化事業」を申請したが、不採択となった。サントリー文化財団に「地域社会の課題解決を目指すアクションリサーチの実

用化評価手法の開発」(申請者:菅原郁子・東京大学講師)の研究メンバーとして理事長は申請したが、不採択となった。トヨタ財団国際交流事業に「地域介護の人材育成還流支援:アジア式介護実習普及センター構想」を申請した。

(2) 各種イベント

平成30年9月福岡市で開催された介護福祉総合フェスティバルで、理事長は「アジアを舞台とする日本の介護の可能性」について講演を行った。

平成30年12月沖縄県・宜野湾市で開催された第47回全国老人クラブ大会で、理事長は第2分科会の助言者として参加した。

平成31年3月東京大学高齢社会総合研究機構主催のシンポジウム「人生100年時代のまちづくり～コミュニティで創るイノベーションプラットフォーム～」に理事長はパネリストとして参加した。

(3) 協議

タイ国通商代表部、熊本県、福岡県、大牟田市、松月苑、リエイなどからの訪問を受け、情報交換を行った。

2 事業の実施に関する事項

該当する事業区分	事業名	実施時期	実施場所	従事者人数	受益対象の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1・2・3・4	福岡アジア高齢社会デザイン協議会	通年	福岡市 マレーシア	4名	一般市民、イベント参加者 100名	1,599
1・2・3・4	アジア・インパクト対話ワークショップ事業	通年	福岡市	4名	イベント参加者 100名	7,008
3・4・5・6	JICA 草の根技術向上交流事業	通年	福岡市 タイ	2名	バンコク都民 100名	19
6	海外視察受入れ事業	7月	福岡市	3名	ソウル市民 11名	86

～AABCの定款に定める事業区分～

1. エイジングに対応したまちづくりのための調査研究及び事業の企画実施
2. アジア地域におけるエイジング情報の収集・発信
3. アジア地域におけるエイジングに関する公共政策研究者とのコンソーシアムの支援
4. アジア地域のエイジングに取り組む民間団体とのネットワークの構築
5. アジア地域におけるエイジングビジネスの調査研究及び開発
6. アジア地域におけるエイジング研修ツアーの企画実施